

内田康夫さん死去 83歳

浅見光彦シリーズなど



満足して亡くなった

内田康夫さんの妻で作家の早坂真紀さんの話 新聞連載していた小説「孤道」を完結させられなかったことには悔いがあり、療養中も「自分で書きたかった」と言っていたが、最終的には満足して亡くなったと思う。「孤道」の完結編を公募したことで「いい作品が集まるといいね」とも話していた。最期は本当に穏やかで、今にも笑いだすのではないかと思っただった。

幸せだった作家人生

作家の小池真理子さんの話 内田康夫さんとは軽井沢に移住した同士、食事を一緒にしたり自宅に招かれたり、家族ぐるみで近しく接してきました。ファンを前にするとサーピス精神旺盛で華のある方でしたが、物静かで、ひょうひょうとした印象もあります。あれだけのベストセラーを出し、自分の信じた道を迷いなく進み、大好きな軽井沢に家と記念館をつくり、たくさんの方々に囲まれたまま晩年を迎えられた。すごく幸せな作家人生を送ったと思います。

件」から始まった浅見シリーズで人気に火が付き、西村京太郎さんと並ぶ旅情ミステリーの書き手として活躍した。

ルポライターが日本各地で難事件を解決する浅見シリーズは映像化され、テレビドラマでは榎木孝明さんや辰巳琢郎さん、中村俊介さんらが浅見役を演じた。「天河伝説殺人事件」は市川崑監督によって映画化された。

浅見シリーズは累計約9700万部。信濃のコロンポシリーズや歴史小説「地の日記念誌の編集長を務めた際、

「人当たり良かった」

13日に83歳で死去した内田康夫さんは、県立川越高校に在籍していた。同高の元国語

教諭栗原進さん(79)「鶴ヶ島市」は、1999年に同校の創立100周年で編さんした

天の海」などを含め、著作の累計発行部数は計約1億1500万部。83年に軽井沢町に転居。2008年に日本ミス

テリー文学大賞を受けた。15年7月に脳梗塞で倒れ、リハビリに励んだが、17年3月に「書き続けることが難しくなった」として休筆宣言。

浅見シリーズ114作目の「孤道」を未完のまま出版、完結編を公募した。読者との交流を大切に、文壇きつての囲碁の打ち手としても知られた。

内田さんに原稿を寄せてくれるよう依頼したことがある。栗原さんは「深いお付き合いはなかったが、訃報を知って驚いた。人当たりの良いお人柄だった印象がある」と懐かしんだ。

(関根義浩)

テレビドラマ化もされた浅見光彦シリーズで知られる作家の内田康夫(うちだ・やすお)さんが13日午前8時25分、敗血症のため東京都内で死去した。83歳。東京都出身。自宅は長野県軽井沢町。葬儀・告別式は近親者で行った。喪主は作家で妻の早坂真紀(はやすか・まき、本名内田由美「うちだ・ゆみ」さん)。

お別れの会は行わず、23日から4月23日まで、軽井沢町長倉504の1、浅見光彦記念館に献花台を設ける(休館日を除き、開館時間帯のみ)。この期間は入館無料。

県立川越高校に在籍した。CM制作会社の経営をしていた1980年に自費出版した長編「死者の木霊」が注目され、46歳で作家デビュー。出版社から注文が来るようになり、専業作家に。

82年の「後鳥羽伝説殺人事